

はじめに

日本キリスト教会が「憲法規則」を改正し、伝道と教会形成に新しい思いをもって出発してから、早や15年を経過しました。今回、「信仰と制度」に関する委員会は、ほぼ3年間、三つの課題に取り組みました。

何よりも、三つの課題の大前提となるのは、改正された『日本キリスト憲法』の前文に記されている、「聖なる公同の教会の本旨を実現するため」という自己確認と主張です。しかしこの主張は、なにも日本キリスト教会ばかりではなく、世界中に広がる諸教会もまた掲げているのです。従って、日本キリスト教会は、その流れをくむ世界の中の「改革教会」、「長老教会」という歴史的伝統に根ざして、この自己確認と主張を具体的に示す必要があると同時に、今日、これらの教会が、どのように激しく動くこの世界と諸教会に対応しているかを学び取る必要を覚えました。

このような大前提に立ちながら、第一の課題として、「日本キリスト教会信仰の告白(口語文)」が制定されたことを受けて、『日本キリスト教会信仰の告白』Q&Aの作成に当たりました。その成果が今回の『資料集』(I)です。既に「使徒信条」部分を除いた「告白文」に関しては、でき上がったサンプルを大会に配布して来ました。この成果を通して、日本キリスト教会が日本基督教団から離脱することを示した「信仰の告白」の立場と主張が鮮やかにされて、その信仰が次世代へ継承されて行くと共に、聖書のみことばを学ぶ上で活々と喜びにみちた手引きとなるように願っています。そのため、この『資料集』(I)は実際に「カテキズム」として用い易いようにハンディな冊子に作製しました。また、『日曜学校誌』への掲載・『教本』としての出版、また大会ホームページ等に公開して、広く意見をいただくことを計画しています。このような「Q&A」の成果と皆さんからの議論が「新しい」信仰告白の方向を指し示すことができるように、と願っています。

「資料集」(II)は「式文」に関するものです。上記の「憲法・規則」の改正に伴い、2000年に『式文(改訂版)』が出版されました。それに先立ち、1991年に「大会議事資料」として『式文(試案)』が配布されています。日本キリスト教会の「式文」作成にまつわる難点の一つは、「式順」についての指示を掲げることにあります。「式文」は、その最初の部分で各個教会が執行する「主日礼拝式」の「式順」に関し、幾つかの実例が提示されているのが普通です。2000年の『式文(改訂版)』には一つだけ式順が掲載されておりまして、それに倣った教会もあります。従来そのままのところも多いようです。しかし、考えてみなければならないのは、主日礼拝とは孤立したものではなく「世々の教会」と一緒にささげる「聖なる公同の」教会の礼拝式であるということです。ですから、日本キリスト教会の各個教会の主日礼拝式を一律化することではなく、多様性があっても「より公同的な」教会の礼拝の連なるための自覚と努力が必要ではないでしょうか。委員会は世界の「改革教会」「長老教会」が伝統的にそうしているように、「式順」の提示に先立って『礼拝指針』なるものの必要性を痛感しました。そのため、日本キリスト教会の歴史的ルーツの一つであるアメリカ合衆国長老教会の『礼拝指針』を参考

資料として翻訳し、付録に載せることにしました。山口俊夫長老（小平教会）がその労をとって下さいました。この場をかりて、感謝を表します。

また、洗礼・聖餐・信仰告白に関する式文について再検討しました。欧米の「改革教会」、「長老教会」も、今日の世界と諸教会の変化に対面して、特に1990年後半に入って、『式文』の改訂作業を大々的に行い、出版しています。それらの成果をも参考にしながら、日本キリスト教会の「式文」として、従来のものに倣ってシンプルで霊的に豊かなものを目指したいと願いました。日本キリスト教会に属するそれぞれの教会において、主日毎の礼拝がどのように整えられて、礼拝式が充実したものとなって行くかは、教会の生命に関わることであります。

「資料集」(Ⅲ)は、改訂された「憲法・規則」の検討作業を旨としたものです。しかし、このことと関連して、途中から、「大会会議」を実りあるものとするためにどういうことが考えられるのか、との研究課題をいただきました。すでにその関連で検討し、大会資料として報告して来たものをまとめておきます。今後、従来課題として、主に「大会と中会のorganicな関係」が問題となるでしょう。また、かつての旧日本基督教会が解体したようにならないため、中会が具体的に「日本キリスト教会信仰の告白」を正しく継承してゆく「長老制」の中核として堅実に形成される課題を究めなければならないでしょう。やはり、そのためにはルーツに帰って、ルーツから学び取ることです。そのための資料として、委員の一人伊藤健一長老が、アンドリュー・ヘロン著『中会ガイドブック』を翻訳しました。なお、「長老制」に関し造詣の深い澤正幸教師が「解説」を書いて下さいました。さらに、「礼拝指針」の翻訳でもお世話になった山口俊夫長老がアメリカ合衆国長老教会の『政治基準』を翻訳して下さいました。資料として載せました。

改訂された「憲法・規則」は実施される時、当然ながら、その背後にある神学的見識に欠けると、「キリストの体である教会」の形成を誤ります。今回、改訂された「憲法・規則」を実施されてみて見出される「不備」の指摘、また各個教会、伝道所や各中会での意見をくみ取り検証することはできませんでした。おしなべて、かつて今も、日本キリスト教会は「教会政治」に真摯に向かい合う点で十分でないように思います。今後、将来に向けて、翻訳していただいた貴重な「参考資料」を学びながら、本来あるべきより堅実な「長老制」のあり方を旨ざすことを願っています。

なお、日本キリスト改革派教会憲法委員会第三分科会（委員長 金田幸男）から礼拝に関する膨大な参考資料をお贈りいただきました。またその第三分科会と私どもの委員会との間で、礼拝についての有益な会合を二回開きました。ここをお借りして報告させていただきます。今後とも両教会においてこのような交わりが進展することを願っております。

2010年10月
第60回日本キリスト教会大会
信仰と制度に関する委員会
委員長 小坂宣雄

目次

第1部 礼拝順序	1
<「礼拝順序」に関する手引き>	2
第2部 「聖礼典」とそれに不随する「信仰告白(式)」	5
1. 「小児洗礼(式)」	5
<「小児洗礼」に関する手引き>	10
2. 「成人洗礼(式)」	12
<「成人洗礼」に関する手引き>	17
(付) 洗礼に関する教理の覚え書	18
3. 「聖餐(式)」「主の晩餐」	23
<「聖餐」に関する手引き>	26
4. 「信仰告白(式)」	28
<「信仰告白(式)」に関する手引き>	30
第3部 (付録) 『礼拝指針(アメリカ合衆国長老教会)』(山口俊夫訳)	31

第1部 礼拝順序

礼拝順序 (『日本キリスト教会式文』2000年改訂 p. 12)

憲法第4条1～4項参照

- 1 招 詞
- 2 讚 美 歌
- 3 罪の告白と赦し
- 4 讚 美 歌
- 5 聖書朗読 (旧約聖書・新約聖書)
- 6 祈 り
- 7 讚 美 歌
- 8 説 教
- 9 祈 り
- 10 讚 美 歌
- 11 信仰告白 (使徒信条、ニカイア信条、日本キリスト教会信仰の告白)
- 12 聖礼典 (洗礼・聖餐)
- 13 献金 (奉献)・感謝
- 14 主の祈り
- 15 頌 栄
- 16 派遣と祝福

< 「礼拝順序」に関する手引き >

1. 日本キリスト教会では旧日本基督教会以来、いわゆる、「礼拝式順」は決められてこなかった。1995年第45回大会で日本キリスト教会憲法が改正された。日本キリスト教会憲法第42条2項で「礼拝は、招詞、聖書朗読、説教、聖礼典、祈り、讃美、献金、祝福等からなる。」と規定され、礼拝の構成要素が並べられているが、式順 (order) は記されていない。但し、この礼拝について規定する第4条第4項で「日本キリスト教会は式文を保有する。礼拝等の諸文は、式文に準じて、小会が決定する。」と規定し、礼拝がそれなりの順序をとるものとして認め、その決定をそれぞれの教会の小会に委ねている。
2. 順序の「範例」として『日本キリスト教会式文 (2000年改訂 p. 12)』一つだけを掲げた。これは前回の「信仰と制度」に関する『式文試案 (1991年第41回大会議事資料)』p. 3-6にわたって、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと3つの式順が提示されているが、そのⅠのものである。これだけを掲げた理由は、Ⅰの式順において、Ⅱ、Ⅲと詳細に展開されて行く「範例」の基本を認めることができるからである。「改革教会」の礼拝順序に関する大切な伝統は画一化・一律化されることではなく、多様性の豊かさを宿しながら、一定の秩序を保って礼拝が執り行われることである。
3. 「改革教会」「長老教会」では、「礼拝順序」を定めるに先立って、必ず「礼拝とは何か」を本質的に規定する「礼拝指針」が『教会規程』の一つに含まれている。つまり、「政治基準」「訓練規定」「礼拝指針」の三つが教会の法的規範である。今回、委員会はそのような見識に立って、「礼拝順序」よりもその前提となる「礼拝指針」を将来準備する必要があると感じた。その参考資料として、アメリカ合衆国長老教会の「礼拝指針」を翻訳し付録として供した。
4. アメリカ合衆国長老教会において、『礼拝指針』は個々の教会における礼拝の諸原則、責任、必要を説明するものであり、『共同 (公同) 礼拝書 (The Book of Common Worship)』は礼拝指針によって支持された骨格に肉付けしたいくつかの礼拝順序を提供している。日本キリスト教会の式文の「礼拝順序」を考える上で、この『礼拝指針』にも見られる重要な理解について、これまで信仰と制度に関する委員会の資料集でも礼拝順序の解説で指摘されてきていることであるが、改めて四つの点に触れておきたい。
 - (1) **礼拝式順の公同性** 現在、アメリカの長老教会、スコットランドの長老教会、ドイツの改革教会では、式文は order book と呼ばれ、礼拝の order、順序、秩序を示すものであり、それらはほぼ共通している。主の日の礼拝は世界に散らされて

いる神の民と一緒にささげているものであり、本来公同の性格をもっている。アメリカ合衆国長老教会『礼拝指針』も「ここで提供されている礼拝順序は論理的に漸進であり、旧新約聖書に起源をもち、普遍的教会の伝統と我々の改革主義の遺産を反映している」(w-3. 3202)と記している。「普遍的教会の伝統」とあるように、改革教会は公同の教会を堅く信じ、礼拝式順も公同の性格を持つように強く意識している。2000年に改訂出版された『式文』に掲載された範例も礼拝のこの公同の性格に従っているものなのである。

- (2) **公同**の礼拝は**仲保者イエス・キリストを根拠として成立している** 聖書は書かれた神の言葉であり、神の自己啓示を証しする。御言葉が読まれ、宣言されるところに生ける神の言、イエス・キリストが聖霊の内的証言によって臨在される(w-2. 2001)。イエス・キリストは御言葉と sacrament によって臨在される。礼拝は聖書の言葉によって臨在されるイエス・キリストが中心である。公同**の**礼拝はこのキリストを仲保者・大祭司として成立している。「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」(ヨハネ1・18)。この神を私たちも礼拝する。「あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは「アッバ、父よ」と呼ぶのです」(ローマ8・15)。公同**の**礼拝は父なる神を永遠の仲保者である御子において聖霊を通して礼拝する。礼拝において、聖霊が父なる神より遣わされ、私たちを御子と一つにして、この御子の応答と従順、信仰と祈りと讃美へ私たちを引き上げ、父なる神の御前へと連れ出し、天上の礼拝、三位一体の神の永遠の交わりに与らせて下さるのである。
- (3) **公同**の礼拝は**三位一体論的構造を反映している** このように礼拝において御子イエス・キリストの仲立ちを根拠にして三位一体の神の交わりの中へ連れ出される。礼拝は招詞、神の私たちに対する招集から始まる。しかし、礼拝において単に神の御前にあるのではなく、三位一体の神のご自分を与える愛の交わりの中に招かれている。「神奉仕」(*Gottesdienst*)という言葉は、礼拝は根本的に私たちが行うことではなく、神が私たちに奉仕して下さることを示している。神が私たちを招集し、私たちに仕え、私たちをご自分の愛と命の交わりの中に連れ出して下さる。私たちはこの恵みの中で、この恵みに従って、神に奉仕する者とさせられている。礼拝はキリストにおいて私たちに恵み深く与えられているリタージェ(民の業)である。礼拝が三位一体の神の私たちに対する奉仕であることを忘れるなら、礼拝をもっぱらわたしたちが主体として行うものとして理解し、三一の神ではなく人間中心の礼拝となる危険がある。改革教会は礼拝を神中心の礼拝として理解してきた。その理解は礼拝を三一論的形態と構造をもつものとして理解することによって可能となる。

(4) **公同の礼拝の式順は救済の秩序に従っている** アメリカ合衆国長老教会『礼拝の指針』は、礼拝式順を神の生ける言葉、礼拝に臨在されるキリストを中心に五つの行為に照らして提示している。すなわち、(1)「御言葉の周りに集う」、(2)「御言葉を宣言する」、(3)「御言葉に応答する」、(4)「御言葉を印章する」、(5)「世界へと御言葉を携えて遣わされ、御言葉に従う」。『式文』の礼拝順序もこれに従うものであり、これらの五つの要素はイザヤの召命(イザヤ 6)やハイデルベルク信仰問答の構造にみられるように救いの秩序を示すものであり、神の救済の物語、その歴史を反映している。神を礼拝する形式は神が強く望まれ、規定さえしておられるのである。この神の救いのドラマ、物語が、わたしたちが礼拝において行うことの基本的枠組を提供している。わたしたちの賛美、祈り、説教、聖書朗読、聖礼典、奉獻、派遣は神の救済の歴史、その神の救いの物語を再び物語るものであり、私たちに神がどなたであり、神が何を行われたのかを思い出させ、その恵みに与らせるものである。私たちはこれらの神への応答の形式を用いて、礼拝の一部だけに参加するのではなく全体に参加して、神を礼拝し、神の救いの物語を聞く。救済史において生きて働く父と子と聖霊の救いの物語にキリストの仲立ちによって招かれ、三一の神の命の交わりに参与し、神の国の完成を待ち望みつつ、神の栄光のために責任と自覚をもって応答し、仕えるものとされて派遣されていくのである。

また、大切なことであるが、礼拝があまりにも形式的なものとなり、聖霊が働く余地がないものとならないように注意すべきことは当然である。しかし、『式文』の礼拝順序の範例は、教会の礼拝が御言葉に適って秩序づけられ、初代から用いられてきた習慣や祈り、また今日の世界の公同の教会が広く用いている要素が考慮され、御霊が自由に働くところとなるためのものなのである。

第2部 「聖礼典」とそれに付随する「信仰告白（式）」

1 「小児洗礼（式）」

- 1 憲法第4条3、4項、第5条1、3項、第10条1項小会（1）
（2）、規則第17条2項、第23条5、6項参照。
- 2 小児洗礼は、日本キリスト教会教師がこれを授け、その小児には証明書を与え、未陪餐会員として、会員原簿に登録する。

【小児洗礼を受ける家族（また、小会が決定して立ち会う長老）が前に出る】

1. 聖書と小児洗礼の辞（ことば）

小児洗礼を執り行います。

聖書

主は、子供たちを招き、祝福されました。

「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。』そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」（マコ 10:13-16）

また、主ご自身、洗礼を受けられました。

「そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、『あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえ

た。」(マルコ1・9～11)

このようにして、主は弟子たちに命じて言われました。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28・18～20)

さらに、聖霊降臨(ペンテコステ)の日、使徒ペトロは言いました。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」(使徒言行録2・38～39)

小児洗礼の辞(ことば)

神はイスラエルの家の子たちを、恵みによる永遠の契約を継ぐ者とされたように、キリストの体に結びつくわたしたちの子どもたちを同じ恵みによる契約のうちにおいて下さっています。わたしたちは人間の業に先立つ神の選びを信じ、神の愛が、まだこの子供たちに分からなくても、ひとりひとりに注がれていることを、受け入れるように招かれています。

わたしたちの授かる洗礼は、主イエスと一つに結び合わされて罪に死に、新しい命へ復活するしるしです。主イエスはヨルダン川の水で洗礼を受けられた時、神の霊が彼の上に降りました。その洗礼はご自分が十字架の上で罪に死なれ、新しく復活されることを通して完成されました。

わたしたちに洗礼を授ける方はこの御方、主イエス・キリストです。聖霊降臨の日に降った同じ聖霊によって、主はわたしたちをご自分の体である教会のえだ(肢)となさり、わたしたちがこの世界においてキリストのつとめ(使命)にあずかるように召されるのです。

神は水と聖霊によってわたしたちをご自分のものとなさり、わたしたちを罪から洗いきよめ、死の力から解き放って下さいます。

2. 受洗する子供への呼びかけ

[氏名]さん。

あなたに対する神さまの愛が確かな保証となるように、この洗礼が聖霊によってしるしづけられるように。

3. 親に向かって信仰の告白を問いかける

あなたは、この子の洗礼を受ける時、この子がキリストと一つに結ばれ、キリストの体である教会のひとえだ（肢）とされることを願い、「日本キリスト教会信仰の告白」の中の「使徒信条」で信じ告白されている「使徒的信仰の伝統に従う」教会の信仰の教えを受け入れますか。

親は「はい」と答える。

4. 牧師は会衆を起立させ、「使徒信条」を一同で信じ告白する。

5. 祈り

恵み深い神よ、水と聖霊の賜物に対し、感謝をささげます。

天地創造のはじめ、あなたの霊が水の面を動いて、混沌とやみの深淵に光と命とをもたらしました。

あなたは洪水の水によってこの世界をきよめられて、ノアとその家族を全ての人々の新しい初めとされました。

モーセの時、あなたは、新しい約束の地においてご自分の民と契約を結ぶために、彼らを紅海の水を渡らせ、奴隷の状態から導き出しました。

時は満ちて、主イエスはヨハネからヨルダン川の水によって洗礼を受けられた時、彼の上にあなたの霊を降されました。

そして今ここで、主イエスの死と復活に合わされる洗礼によって、キリストはわたしたちを罪と死から解き放ち、永遠の命への道を開いて下さいます。

【牧師は洗礼盤に水を注ぐ】

（あなたの霊をわたしたちの上に、この水の面に降してください。）

〔氏 名〕さんがこの洗礼によってキリストと共に葬られ、新しい命に向かってキリストと共に新しく生まれ変わりますように。そして、あなたの真実な神の子たちの群れの中にいつまでもとどまりますように。アーメン

あなたのために、イエス・キリストは死に勝利して新しい命に復活されました。

あなたのために、イエス・キリストは天に昇られ神の右の支配の座につかれました。

あなたは今までそのことが分からなくても、あなたのために、イエス・キリストはこのすべてのことをなさってくださいました。

そのようにして、「神がまずわたしたちを愛してくださいました」という聖書の御言葉は、実現しています。

6. 洗礼執行

[氏 名]、父と子と聖霊とのみ名によって、わたしはあなたに洗礼を受ける。

アーメン

(按手 授洗に続けて、牧師は受洗者の頭に手を置いて祝福する。)

父と子と聖霊なる全能の神の祝福があなたに降り、あなたのうちに住まわれますように。アーメン

7. 宣言

今、[氏 名] は、イエス・キリストに結び合わされる洗礼を授かりました。

わたしたちは、[氏 名] を一つの聖なる公同の使徒的教会のひとえだ（肢）として喜んで受け入れます。

8. 勧めと誓約

【親に対して】

あなたの子供はキリストによって神のものとされました。この日から、キリストの教会の交わりのうちにある神の家族のえだ（肢）です。

あなたはこの子に親としてきょう授かった洗礼のことを教え、また、そのめぐみを明らかにしなさい。それはこの子が洗礼を受けていることを自覚できるために、です。そのようにして、この子が成長していく中で、信仰と愛とにおいて、自分から応答していくようになり、ふさわしい時期にキリストの体と血とにあずかる主の晩餐を共にするためです。

あなたは約束しますか。

神の恵みに信頼しながら、この子にキリスト教の信仰の真理とそのつとめを教えることを。また、祈りと自分が手本となって、この子を教会の礼拝と生活の中で育てることを、約束しますか。

親は「約束します」と答える。

【教会員に対して】

ここに召集されているあなたがたはすべての公同の教会を代表する者たちです。御言葉と聖礼典は、あなたがたのさなかにキリストの現臨の喜びをもたらしています。また、御言葉と聖礼典は、ここにいるキリストの民としてあなたがたに責任をもたらします。

あなたがたは約束しますか。

〔氏 名〕 この子を喜んで受け入れ、神の助けを求めて、あなたがたに託されている責任を果たすことを。つまり、すべての神の子供たちの前で、優しくかつキリスト者にふさわしくふるまうこと、また、キリストを知る知識とキリストを愛する愛をこの子供たちと共に分かち合うことを新たな決意をもって約束しますか。

教会員は「約束します」と答える。

最後に牧師と教会員が一緒になって言う。

わたしたちは信仰において互いに養い合い、祈りにおいて互いに支え合い、愛において互いに励まし合います。

9. 洗礼に伴う讃美歌を一緒に歌う

< 「小児洗礼」に関する手引き >

1. 従来「小児洗礼式」というように表してきたが、「洗礼」とよぶことにした。正確な表現は「洗礼という聖礼典」のことを「洗礼式」と言い表したものである。それは「聖餐式」についても同様である。英語を例にとれば、Baptism、Holy Communion(Lord' s Supper)であって、「式」というよりも「出来事」を表わす。「式」とよばれるのは「主日礼拝式」であって、その中で執り行われる「洗礼」「聖餐」(「主の晩餐」)は主イエス・キリストの「福音」の告知の「出来事」である。
参照 『神の民の礼拝』(カンバーランド長老キリスト教会礼拝書 p. 92。『季刊 教会』No. 68 p23 以下に、かつての日本基督教会が「聖礼典」を礼拝式の中で「式」とよんできた事態と問題が論述されている。
2. 「小会が決定して立ち合う長老が前に出る」 現在、教会によっては、洗礼盤の奉仕に「立ち合い」という形で長老があたっている。このことが何を意味するかであるが、いずれにしても、小会は洗礼という聖礼典の執行によって、小児をキリストの体である教会のひと肢となる出来事に承認した法的責任を負っているのである。この部分を()に入れたのは伝道所の場合を考えてである。
3. 「聖書と小児洗礼の辞」 1990年代に出版された世界の長老教会の洗礼に関する順序の特徴は、制定に関わる聖書の御言葉を語りかけることから始めている。その後、御言葉に即して「辞」を述べている点である。
4. 「小児洗礼の辞」では、従来『日本キリスト教会式文』でもそのように述べられてきた、子供たちが親たちと一緒に「恵みによる契約」のうちにおかれていることの信仰を明確化している。
5. 「小児洗礼」は大人の場合と何ら本質的に変わりなく、三位一体の神の御名において執り行われる救いの出来事であることを明確化している。
6. 「受洗する子供への呼びかけ」 神が子供「サムエル」の名前を呼んだように(サムエル記上3章)、「呼びかける」ことに重要性がある。
7. 「親に向かって信仰の告白を問いかける」 問われている信仰とは、「日本キリスト教会信仰の告白」の中の『使徒信条』で信じ告白されている「使徒の伝統に従う」教会の信仰の教え(教理)である。

8. その信仰とは、世々の教会の聖徒たちが信じ告白してきた「公同の教会の」信仰なので、会衆と共に一同でとなえる。
9. 「祈り」の中で、「牧師は洗礼盤に水を注ぐ」。従来、『日本キリスト教会式文』における「聖餐」の場合もそうであるが、「パンを裂く」「杯をかかげる」という行為（action）のことを考えるべきであろう。その行為と共に「あなたの霊をわたしたちの上に、この水の面に降して下さい」という祈りがなされる。（ ）の中に入れたのは、実際にとなえるかどうかは、自由な判断にまかせるためである。「神の霊を水の面にも」との聖書的典拠は創世記 1・2 である。洗礼は聖霊による新しい創造の出来事である。この祈りは『スコットランド教会式文（“common order” 1994）』に見られるが、東方教会の伝統に基づく。東方教会の信仰の特質は「肉からの」復活信仰に顕著なように「霊的（spiritual）」事柄と「物質的（physical）」事柄を分離しない点である。
10. 「洗礼執行」 従来『日本キリスト教会式文』では、洗礼執行に続いて、受洗者の頭の上に手をおいて「感謝の祈祷」をささげている。この「祈り」の形式は余り自覚されていないが、「按手の祈り」であって、受洗者がキリストのものとして聖別され、キリストのみ業のために生涯ささげられたものであることを表す。今回、そのことを明記し、（按手、授洗に続けて、牧師は受洗者の頭に手をおいて祝福する。」と付け加えた。参照 『神の民の礼拝』（カンバーランド長老キリスト教会礼拝書） p. 99。
11. 「宣言」 授洗者が「一つの聖なる公同の使徒的教会のひとえだ（肢）とされた」ことを明確化している。
12. 「勧めと誓約」 「親に対して」だけでなく、「教会員に対して」も、なされる。ひとりの子供の洗礼の出来事は、キリストの体である教会の出来事であり、教会全体が「信仰において互いに養い合い、祈りにおいて互いに支え合い、愛において互いに励まし合う」責任と喜びを負う。

2 「成人洗礼（式）」

- 1 憲法第4条3、4項、第5条1、2項、第10条1項小会
(1)(2)、規則第17条2項、第23条5、6項参照。
- 2 司式は日本キリスト教会教師がこれに当たる。
- 3 洗礼式は、通常、主の日の礼拝中に執行し、受洗者は会員
原簿に登録される。

【洗礼を受ける者（また、小会が決定して立ち会う長老）が前に出る】

洗礼を執り行います。

1. 聖書と洗礼の辞（ことば）

聖書

福音書は教えています。

「そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、『あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえた。」（マルコ1：9～11）

このようにして、主は弟子たちに命じられました。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：18～20）

さらに、聖霊降臨（ペンテコステ）の日、使徒ペトロは言いました。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたが

たの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

(使徒言行録2：38～39)

洗礼の辞（ことば）

わたしたち人間は罪の中に生まれ、神に背いているものです。洗礼はわたしたちを罪から洗いよめるため、水と霊とによる新しいめぐみの契約のしるしです。主イエスご自身、「だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない」（ヨハネ 3：3）と言っておられます。

今、あなたは洗礼を受ける時、何よりも悔い改めて、これまでの罪の道を離れ、新しいいのちに生かされる決意が求められます。

わたしたちはこの（これらの）兄弟（姉妹）が洗礼に導かれたことを感謝し、洗礼が主のみ名にふさわしく行なわれることを祈りましょう。

わたしたちに授かる洗礼は、主イエスと一つに結び合わされて罪に死に、新しい命へ復活する証印です。主イエスはヨルダン川の水で洗礼を受けられた時、神の霊が彼の上に降りました。その洗礼はご自分が十字架の上で罪に死なれ、新しく復活されることを通して完成されました。今、わたしたちに洗礼を授ける方はこの御方、主イエス・キリストです。聖霊降臨の日に降った同じ聖霊によって、主はわたしたちをご自分の体である教会のえだ（肢）となさり、わたしたちがこの世界においてキリストのつとめ（使命）にあずかるように召されるのです。キリストの愛と平和と正義のわざに加わるのです。

神は水と聖霊によってわたしたちをご自分のものとなさり、わたしたちを罪から洗いよめ、死の力から解き放って下さいます。

2. 受洗する者への呼びかけ

[氏 名] さん。

あなたに対する神さまの愛が確かな保証となるように、この洗礼が聖霊によってしるしづけられるように。

3. 信仰の告白を問いかける

(一) あなた（方）は、洗礼を受ける時、キリストと一つに結ばれ、キリストの体である教会のひとえだ（肢）とされることを願い、「日本キリスト教会信仰の告白」の中の「使徒信

条」で信じ告白されている「使徒的信仰の伝統に従う」教会の信仰の教えを受け入れますか。

受洗者は「はい」と答える。

(二) あなた(方)は、ここで、信じ告白されている

「天地の造った、全能の父」を信じますか。

「そのひとり子、わたしたちの主イエス・キリスト」を信じますか。

「聖霊」を信じますか。

受洗者は「はい」と答える。

(三) あなた(方)は、このような父・子・聖霊なる三位一体の神を信じ、その御名によって洗礼されることを願いますか。

受洗者は「はい」と答える。

4. 牧師は会衆を起立させ、「使徒信条」を一同で信じ告白する。

5. 祈り

恵み深い神よ、水と聖霊の賜物に対し、感謝をささげます。

天地創造のはじめ、あなたの霊が水の面を動いて、混沌とやみの深淵に光と命とをもたらしました。

あなたは洪水の水によってこの世界をきよめられて、ノアとその家族を全ての人々の新しい初めとされました。

モーセの時、あなたは、新しい約束の地においてご自分の民と契約を結ぶために、彼らを紅海の水を渡らせ、奴隷の状態から導き出しました。

時は満ちて、主イエスはヨハネからヨルダン川の水によって洗礼を受けられた時、彼の上にあなたの霊を降されました。

そして今ここで、主イエスの死と復活に合わされる洗礼によって、キリストはわたしたちを罪と死から解放し、永遠の命への道を開いて下さいます。

【牧師は洗礼盤に水を注ぐ】

(あなたの霊をわたしたちの上に、この水の面に降してください。)

〔氏名〕さんがこの洗礼によってキリストと共に葬られ、新しい命に向かってキリストと共に新しく生まれ変わりますように。そして、あなたの真実な神の子たちの群れの中にいつまでもとどまりますように。アーメン

あなたのために、イエス・キリストは死に勝利して新しい命に復活されました。
あなたのために、イエス・キリストは天に昇られ神の右の支配の座につかれました。
あなたのために、イエス・キリストはこのすべてのことをなさってくださいました。
そのようにして、「神がまずわたしたちを愛してくださいました」という聖書の御言葉は実現しています。

6. 洗礼執行

[氏 名]、父と子と聖霊とのみ名によって、わたしはあなたに洗礼を授ける。

アーメン

(按手 授洗に続けて、牧師は受洗者の頭に手を置いて祝福する。)

父と子と聖霊なる全能の神の祝福があなたに降り、あなたのうちに住まわれますように。アーメン

7. 宣言

今、[氏 名] は、イエス・キリストに結び合わされる洗礼を授かりました。

わたしたちは、[氏 名] を一つの聖なる公同の使徒的教会のひとえだ(肢)として喜んで受け入れます。

8. 勧めと誓約

あなたはキリストの体である教会のひとえだ(肢)とされました。この日から、教会の交わり、聖徒の交わりの中にあって、頭であるキリストにむかって成長するように努めなければなりません。

あなたは誓約しますか。

(一) あなたは主の日の礼拝を重んじ、教会員にふさわしく生活することを誓約しますか。

受洗者は「はい」と答える。

(二) あなたは、何よりも、聖餐のめぐみにあずかるため洗礼されたのですから、今後、聖餐を重んじ、喜び、誠実に守ることを約束しますか。

受洗者は「はい」と答える。

(三) あなたは、「唯一の聖なる公同の使徒的教会」の一団である「日本キリスト教会」に属する者です。その日本キリスト教会信仰の告白を誠実に受け入れ、憲法規則に従うことを約束しますか。

受洗者は「はい」と答える。

【教会員に対して】

ここに召集されているあなたがたはすべての公同の教会を代表する者たちです。御言葉と聖礼典は、あなたがたのさなかにキリストの現臨の喜びをもたらしています。また、御言葉と聖礼典は、ここにいるキリストの民としてあなたがたに責任をもたらします。

あなたがたは約束しますか。

〔氏 名〕この兄弟（姉妹）を喜んで受け入れ、神の助けを求めて、あなたがたに託されている責任を果たすことを。すべての神の民の前で、キリスト者にふさわしく柔和で平和にふるまうこと、また、キリストを知る知識とキリストを愛する愛をこの兄弟姉妹たちと共に分かち合うことを新たな決意をもって約束しますか。

教会員は「約束します」と答える。

最後に牧師と教会員が一緒になって言う。

わたしたちは信仰において互いに養い合い、祈りにおいて互いに支え合い、愛において互いに励まし合います。

9. 洗礼に伴う讃美歌を一緒に歌う

<「成人洗礼」に関する手引き>

1. 前項<小児洗礼に関する手引き>を参照されたい。洗礼に関する本質的なことは、小児の場合も成人の場合も全く変わりはない。
2. 特に、小児の場合、従来<信仰告白(式)>をもって補完されなければならないかのような印象があったとするならば、是正される必要があるだろう。<信仰告白>は、聖礼典ではないことをもう一度確認しなければならない。従来『日本キリスト教会式文』では、「小児洗礼式」「洗礼式」に続いて、「信仰告白式」が一緒に並記されているが、今回、聖礼典である「洗礼式」と「聖餐式」とを一つにした。それに付随する「信仰告白式」は聖礼典と峻別した。「信仰告白の手引き」を参照されたい。

(付) 洗礼に関する教理の覚え書

1. 洗礼とは何か

- ① 洗礼は、キリストがご自身の教会のうちに制定された聖礼典であり、福音の告知に属する。
- ② 洗礼執行の命令は、マタイ 28. 18 以下を根拠とする。
- ③ 洗礼はわたしたちの主・教会の頭イエスがヨルダン川でヨハネから洗礼を受けたことに始まり、その洗礼において彼はご自身を罪人たちと同一視された。(マルコ 1. 9～11)
- ④ 洗礼はわたしたちが彼の洗礼にあずかり、従って、彼のものとなり、彼がわたしたちの救いのためになしとげたすべての業にあずかるころの、「行為をもってのしるし (action-sign) である。
- ⑤ 洗礼と福音の説教は、一緒に結び付いており、同じ救いをもたらす。
- ⑥ 洗礼はみ言葉に伴って定められた手続きであり、名をもってよばれるその人 (individual) に適用される手段である。
- ⑦ 洗礼の特質は、神が救いと新しい命とをその人に一回限りで繰り返すことのできない仕方
で保証する点にある。

2. 誰が洗礼において働くのか？

- ① 父・子・聖霊なる神が洗礼において働く。この神が主導権をとって、わたしたちをご自身との人格的な交わりの中へ引き寄せようとしておられるのである。
父なる神は、ご自身の御子をわたしたちに与えて、その愛を限りなく注いで、わたしたちを子として下さり、父の家族の一員として下さっている。
独り子なる神は、ご自身がわたしたちと一体となり、わたしたち罪人のための犠牲 (いけにえ) において従順な命と死とをささげて、わたしたちに父との和解をもたらしている。
聖霊なる神は、聖霊を教会に注いで、わたしたちをキリストと結び付け、その体の部分 (肢体) とする。そのようにしてわたしたちは、キリストの聖められた、また復活された命にあずかることができる。
- ② 洗礼において神は人間の奉仕を用いる。教会が洗礼を施す時、教会は、神が教会の行為をご自身の行為として認め祝福して下さることを知りながら、ただ神の地上的手段として行なう。
- ③ 教会は洗礼において行為するのは神ご自身であるので、洗礼の時、教会は神の言を確認しその救いのみ業を保証しながら、洗礼において有効な行為は、人間が洗礼において行なう

ことによってではなく、ただ神が行なうことを明らかにする。

- ④ 洗礼はキリストが成し遂げられたみ業に何か新しいことを付け加えることではなく、その実現されたみ業の実にわたしたちをあずからせることである。
- ⑤ 洗礼にみ力を与えるのは、その礼典の執行、あるいはそれを執行する者の価値ではなく、神御自身の行為と出来事である。
- ⑥ 神がご自身の行為によって成り立たせ、実現されているので、洗礼はキリストにおける神の救いの愛の、単なる象徴的実例 (illustration) としてだけ理解することはできない。洗礼において神はそこで表示していることを現実に行なっている。
- ⑦ 洗礼における神の行為は、その執行の時に限定されず、受洗者の全生涯にわたって有効である。

3. 洗礼において何が起こるのか？

- ① 洗礼を通して、わたしたちはキリストに接木される。キリストは人となられた時、一度限りご自身をこのわたしたちと合体されたのである。
- ② この合体 (union) を通して、わたしたちは彼の生涯と彼がわたしたちのために行った全てのことにあずかるのである。
- ③ 彼の誕生を通してわたしたちは、新しく誕生し、新しい人類のメンバーとされる。
- ④ 彼の従順な生涯と死を通して、わたしたちの罪は赦され、新しい義の衣をまとうて装われている。
- ⑤ 彼の復活と闇の力に対する勝利を通して、わたしたちは悪の支配から解放されている。
- ⑥ 彼の昇天を通して、天の国はわたしたちに開かれており、またわたしたちは、彼が新しい被造世界の完成をわたしたちの只中にもたらすために彼が再び来られることを待望する。
- ⑦ 彼の霊 (聖霊) にあずかることを通して、わたしたちは彼の体のひとえだ (肢) とされ、彼の教会の目に見える交わりの中へ許可されている。

4. 洗礼と教会とはどのような関係か

- ① 洗礼は教会へのキリストの賜物である。キリストが洗礼を受けた時、彼の上に降った同じ聖霊が、ペンテコステの時教会の上に注がれ、頭とその肢体との間の結合と交わりの絆として絶えず教会のうちに住まわる。
- ② 洗礼はその正当な場所を神の礼拝の只中に持つ。そこでは、キリストの力あるみ業が告知され、また、み言葉を通してみ霊が有効に働いている。その結果、洗礼は神の新生の賜物に対する教会の側からの感謝の行為、受洗者の保護と聖化を求めている祈りの行為、父・子・聖霊を信じる信仰の告白の行為を含む。

- ③ 洗礼と主の晩餐とは、神との結合と交わりの契約の領域を区画する。洗礼は教会の外に対し、境界を据え、教会をこの世界から区別する。すなわち、教会とはキリストの名をもって呼ばれた者たちの交わりであり、闇の一切の力に勝利したキリストの勝利にあずかるようにされている。それ故、洗礼はこの世界の中で天の国が信仰者たちに開かれる領域であり、また、天の国に入るすべての者たちは、主の晩餐を通して、キリストに養われ、キリストの中へ成長していく領域である。
- ④ み言葉の説教・洗礼・主の晩餐は、使徒たちにキリストが権威をもって委託した点で一点に結びついている。み言葉を説教するように合法的に按手された者たちだけが、洗礼と主の晩餐を執行するように権威づけられる。牧師の職務だけが洗礼を受ける権威を持つ。ただキリストがこの職務のみ言葉とみ霊を通して有効とするみ力を持っておられるからである。
- ⑤ み言葉の保証としての洗礼と主の晩餐は、み言葉を離れてはそれ自体何ものでもないもので、それらはみ言葉が告知される場所でだけ執り行われなければならない。そこでは、この礼典が持つ真理の教えが与えられ、また教会訓練のもとで、キリストの家族への入会としての洗礼とキリストに養われ成長してゆくための備えとしての主の晩餐の聖なる尊厳が注意深く守られ、保持される。

5. 洗礼は誰に対し執行されるべきなのか？

- ① ペテロはペンテコステの日に次のように語りながら、全ての人に悔改めて、洗礼を受けるように呼びかけた。「この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいてるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」(使徒言行録2・39)。従って、子供たちと大人たちの双方が洗礼を受けることが許されている。
- ② 「子供たち」とは信仰の子孫を意味する。そのような子供たちは選びの民の子供たちがかつて割礼を受けたように、神の民のメンバーであることを認定するため洗礼を受ける。信仰者たちは、その家族と教会に属しており、子供たちもまたキリスト教的仕方でも訓練されるように、キリストと有効的關係の中にある。
- ③ 「大人たち」とは、神の民の外にありながら、悔改めて神の家族の子とされるように、福音の説教を通して、神によって召された者たちを意味する。
- ④ 大人たちも子供たちも彼らが洗礼を受けるのは、キリストが行なったことをなすことができるのではないこと、ただ受身的に、言わば、幼子の一人として受ける以外にないこと、この点において共通している。

6. 洗礼の正しい使用とはどういうことか？

- ① 洗礼は神がキリストにおいてわたしたちのために行なったことの保証であるから、洗礼は特権であると同時に責任を含んでいる。
- ② 洗礼は信仰を不必要なものとしなが、しかし、洗礼は信仰の報酬でもない。洗礼は受洗者を全生涯にわたってこの神を信じる信仰へと呼び出す。神は真実であられ、ご自身の約束を取り消されることはない。
- ③ 小児として受洗した者たちにとって、このことは彼らが分かる年齢に達した時、自身のあずかった洗礼と義務とを認め、また洗礼が彼らに贈る嗣業を主の食卓に来ることによって自分のものと認めることを意味する。
- ④ 洗礼はわたしたちを罪なき者とするのではなく、訓練の生涯へと召し出す。すなわち、聖霊によって罪と戦い、日毎に自分の罪を悔改める訓練の生涯である。
- ⑤ 洗礼はわたしたちを新しい共同体のメンバーとする。そこではわたしたちは、もはや自分自身のために生きるのではなく、わたしたちを愛して下さった主のため、また、互いに愛し合うために生きる。
洗礼は、わたしたちが喜んでキリストに仕えるように、また、この世界の只中でキリストのみ業をあらわすように、キリストの恥かしめを負うことを呼び求める。
- ⑥ 洗礼においてわたしたちは、贖いの完成の日に向けて保証を受けている。今、この世では旅人である神の民のメンバーとして、この地上を審き更新されるために再び来られるキリストの日を待ち望んでいる。
- ⑦ 洗礼は受洗者を絶望に落とし入れることを許さない。また受洗者を救いの状態に関し肉的な安心感を許さない。安住するならば、与えられているものは拒まれることがある。植えられているものは枯れることがある。生まれているものは成長しないことがある。
- ⑧ 洗礼が拒絶される時、それは悔い改めない人たちにとって審きのしるしとなる。その時、自分をキリストの兵士として認めるこのしるしは、その人には脱走兵の宣告となる。もちろん、もし彼立ち帰り、悔改めて幼子となり、洗礼の時彼に保証されているイエス・キリストの名を避け所として見出す限り、洗礼はなお変わらず彼にとって有効である。

7. なぜ洗礼はサクラメント、恩寵の手段と呼ばれるのか？

- ① 新約聖書では、キリストにおける神と人間との結合、またキリストと彼の教会との結合はギリシャ語で「奥義」(MUSTERION)と規定されている。新約聖書がラテン語に翻訳されるようになった時、この言葉はサクラメント(SACRAMENT)になった。洗礼がわたしたちにとってキリストと彼の教会の結合にあずかる礼典と定められた時、洗礼もまた MUSTERION、また西方においては普通 SACRAMENT と呼ばれるようになった。
- ② 洗礼が「恩寵の手段」と呼ばれるようになったのは、洗礼はキリストが教会のうちに定めた外的な行為であって、キリストはそのことを用いてわたしたちをご自身と結びつけるか

らである。そのようにして、キリストはご自身の恩寵の約束をわたしたちのうちに満たすのである。洗礼を定めた方は天においても地においてもすべての力をお持ちの主であるので、わたしたちによってこの方の約束を信頼して地上で行なうことは、また、この御方が生きる天におけると同じく地上で行なわれていることである。

- ③ 洗礼は従って、神の「目に見える言葉」である。神は聖書においてばかりではなく sacrament の行為によってご自身の福音を告げられる。それらを通して神はご自身をわたしたちに目に見える仕方でも伝達する。洗礼のうちにイエス・キリストは水のしるしのもとでわたしたちのところに来られる。このしるしが表示することを彼は現実（実在的）になしておられる。彼が易しく理解できるように定められたその水のしるしによって、彼はわたしたちをきよめ、新しいいのちに生かすみ力をもって臨んでいる。

（この文章は、『スコットランド教会式文』（1994年）作成に向けて最初の委員会が出したレポートの一部である。）

3 「聖餐（式）」「主の晩餐」

- 1 憲法第4条2、3、4項、第5条1、2、3、4項、規則第17条1、3項参照。
- 2 司式は日本キリスト教会教師がこれに当たる。

1. 聖書と主の食卓への招きの辞（ことば）

牧師は以下のように述べる。

これから、主との交わりの食卓が開かれます。主ご自身がこの食卓あずかるように、招いておられます。

聖書

主は言われました。

「やがて人々は東から西から、南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。」

（ルカ 13・29/マタイ 8・11）

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

（マタイ 11・28）

「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」

（ヨハネ 6・35）

使徒パウロを通して主の晩餐の制定の辞に聞きましょう。

「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。（従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すこととなります。だれでも、自分をよく確かめたうえで、そ

のパンを食べ、その杯から飲むべきです。主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているのです。」

(コリントの信徒への手紙一 11・23-29)

聖餐への招きの辞（ことば）

わたしたちはいま、主イエス・キリストによって制定された聖餐に招かれ、あずかろうとしています。これは、主イエス・キリストが十字架の苦しみを受け死に復活して、わたしたち罪人の救いのために実現して下さった贖罪の完全な犠牲をあらわすものであり、終りの日にあずかる、新しい命の祝福のもとでの、主の祝宴をあらかじめ告げるものであります。これは使徒たちによって伝えられ、世々の教会がそれをうけて、みことばの説教と共に、終りの日まで繰り返し守り続けるべきものであります。

復活の栄光の主は、聖霊を通して今ここに臨み、わたしたちの食卓にともにいまし、信仰をもってこれにあずかる者のうちに働き、罪の救いと限りない命の交わりを堅くし、主の体なる教会に一致と平和を保たせて下さいます。また、必ず来る世の終りと御国の完成に備えて、主のみ心を行うため、力と希望を与えてこの世につかわして下さいます。それゆえ、わたしたちは、特に心してこの聖礼典を守るべきであります。

この聖礼典には、父・子・聖霊の御名によって洗礼を受けられた方はどこの教会員であってもあずかることができます。まだ洗礼を受けられてない方、小児洗礼だけで信仰告白をしていない方はこれにあずかることはできません。主はそのようなひとりひとりを覚えておられます。一日も早く信仰の告白へと導かれることを祈ります。なお、陪餐停止の戒規を受けている者は、これにあずかることは許されません。

2. 祈り

万物の創造主にして、御独り子イエス・キリストを救い主として惜しみなくお与え下さった永遠の父よ、あなたの栄光は全地に満ちています。わたしたちは今、賛美と感謝と共に、このパンとぶどう酒を主の食卓におささげします。

あなたは私たちの永遠の父として、墮落し滅びのうちにあるこの世界のため、永遠の救いのご計画を立てられ、「世の罪を取り除く神の小羊」として御独り子を私たちと同じ肉をとらせて私たちの仲立ちとして下さいました。

御子は受肉し、十字架の上で苦しみ死に、そして三日目墓を打ち破り、滅ぶべきこの世の闇のいっさいに勝利し、今父の右に座し、驚くべき救いの光の御支配の中へわたしたちを移り住まわせて下さいました。苦難と勝利の主は栄光が限りなくありますように。

今、御父と御子のもとから聖霊がわたしたちに降されています。聖霊なる御神よ、今ここに臨んで下さり、備えられているパンとぶどう酒を聖別して下さい。私たちがこれにあずかる時、

苦難と栄光の主の体と一つに結び合わされて、新しい命の喜びにあふれさせて下さい。創造主なる御霊よ、来て下さい。あなたの教会があなたの御子が再び来られる御国の完成を望みて、勇気をもって、御子イエス・キリストの福音を宣べ伝え、隣人を愛し、あなたの平和と正義のため仕えるしもべとして立ちあがらせて下さい。

主のみ名によって祈ります。アーメン

3. 陪餐

牧師は以下のように述べる。

わたしは、主イエスの制定の辞(ことば)に従いこのように執り行います。

牧師はパンを取り、語る。

主は裏切られた夜、パンを取り(牧師はパンを取る)、

感謝して、それを裂き(牧師はパンを裂く)

そして、言われました。「取って食べなさい。これはわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」(マタイ 26・26)

[パウロは同じことを言っています。「わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあずかることではないか。パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです。」(コリント一 10・16~17)]

同じように、主は杯を取り(牧師は杯を持ち上げる)、言われました。「皆、この杯から飲みなさい。これは罪が赦されるように、多くの人のために流される、わたしの血、契約の血である。」(マタイ 26・27)

(会衆はパンと杯を受けるために聖餐桌を囲んで集まってよいし、配餐奉仕者が会衆の席にパンと杯を配ってもよい。)

4. 感謝の祈り

永遠の御父よ、主の食卓の交わりに招かれ、聖霊を通して御子がこの私たち罪人のために裂いて下さったその体、流して下さったその血にあずかり、主は今天にいましても、私たちは永遠に主と一つに結び合わされて、主の骨の骨、主の肉の肉であることを味い知ることができました。主の体によって新しい命に生かされた、あなたの教会としてわたしたちも自分の体をあなたにささげさせて下さい。わたしたちは心をさわがさざるを得ないこの世におりますが、「わたしはすでに世に勝っている」とおおせられている主の慰めと平和のうちに、あなたの御国の戦いと栄光のためこの世にお遣わし下さい。主のみ名によって祈ります。

(感謝の祈りに代えて、詩編 103 編 1~5 節あるいはヨハネによる福音書 16 章 33 節後半をアーメンをつけて読むことも良い。)

5. 讚美歌

< 「聖餐」に関する手引き >

1. 聖餐は、旧約聖書における過越しの祝いがそうであったように神の民にとって契約の記念の食事であり、何よりも御子イエス・キリストによる「新しい」契約に基づく「贖罪犠牲（いけにえ）」を記念すると同時に「終りの日に与る祝宴（婚宴）」の先取りである。従って、洗礼を受けているところの神の契約の民が招かれ与る特権を有すると共に責任を伴う。
2. 聖餐は神の言葉が説教されることと必ず一緒に執り行われる。神の言葉の説教のことは「見えない神の言」と呼ばれ、他方聖餐は「見える神の言」と言われ、聖霊は神の契約の民が耳で聞いている御言葉をわたしたちの身に見える形で出来事として起こし、封印する。
3. 聖餐は神の一方的な恵みの招きによって与かる、と同時に神の契約の民にはその招きに信仰をもって応答する信仰告白と決断がその都度求められている。特に今日、神の民としてこの世界における倫理的使命が明らかにされている。
さて、従来の『日本キリスト教会式文』を基本としながら再考した諸点は、
4. 「洗礼」と同じように聖書に聞くことから式辞へと順序をととのえた。
5. 聖餐への招きの辞は、従来の「式辞」を踏襲しながら、補足する形をとった。慣れ親しんで来ていることを考慮した。
6. また、「聖餐に招かれあずかる」のは誰であるのかは「三位一体の御名によって洗礼を受けたどの教会員でも」とその範囲をはっきりさせた。
7. 祈りの中で、従来の『式文』に欠けていた「万物の創造主にして」救い主イエス・キリストを与えて下さった御父を讃美・感謝し、地上の「なりもの（生り物）」として聖餐桌に備えられているパンとぶどう酒を奉獻する内容を加えた。
8. 従来の『式文』において十分に展開されていなかった聖霊なる神についての内容を加えた。すなわち、伝統的に聖霊を求める祈り「エピクレシス」をそこに含めた。
9. 陪餐では、今日、欧米のどの「改革教会」「長老教会」の『式文』を見ても、指示されているように、Fraction（パン裂き）を採用した。杯に関してもAction（行為）を伴う。
10. 感謝の祈りでは、自分の体をささげる自己奉獻のこと（ローマ 12・1）とこの世界に派遣されること（ite, missa est. “go, it is finished”.）を強調した。
11. 「聖餐」が simple で時間も長くないことが求められるとすれば、感謝の祈りの部分は、詩編 103・1-5、ないしはヨハネ 16・33 後半を、祈りと讃美の心をもって朗読し、アーメンをつけて終わっても良いのではないか。
12. 付録の『礼拝指針（アメリカ合衆国長老教会）』の中で聖餐に与る時、「天上の」聖徒たちと「地上の」聖徒たちとの交わりとが一つとされていることを想起すべきことが指摘されている。今回このことを盛り込むことができなかつたが、大切なことである。

4 「信仰告白（式）」

- 1 憲法第4条4項、第5条1、2、3項、第10条1項小会（1）、規則第17条3項、第23条5、6項参照。
- 2 信仰告白をした者は、陪餐会員として、会員原簿に登録される。

信仰告白（式）を執り行います。

1. 聖書と信仰告白（式）の辞（ことば）

聖書

主イエスは弟子たちに言われました。

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」（マタイ16・13-17）。

また、使徒パウロは言います。

「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです」（ローマ10・9-10）。

信仰告白（式）の辞（ことば）

わたしたちはすでに授かっている洗礼によって、恵みによる永遠の契約を受け継ぐ者とされています。信仰告白は小児洗礼を受けている者が成長して自らその信仰を公に告白するものであります。これによってこの（これらの）兄弟（姉妹）は教会のひとえだ（肢）として聖餐に与かることが許されます。

わたしたちはこの者(たち)のうちに働き、今日まで導いて下さった聖霊に感謝します。

この(これらの)兄弟(姉妹)は、すでに「キリスト・イエスに結ばれるため洗礼を受け、キリストと共に罪に死に、またキリストの死者の中からの復活によって新しい命に生きる者とされている」こと(ローマ 6・3-4)を自覚するに至りました。

2. 信仰告白する者へのよびかけ

[氏 名] さん

今、あなたは公けに信仰の告白をする時、何よりも悔い改めて、これまでの罪の道を離れ、新しいのちに生かされる決意が求められます。

このことがわたしたち自身によってではなく、聖霊の助けによってなされますように。

3. 信仰の告白を問いかける

(一) あなた(方)は、今、「日本キリスト教会信仰の告白」の中の「使徒信条」で信じ告白されている「使徒的信仰の伝統に従う」教会の信仰を公に告白しますか。

信仰告白者は「はい」と答える。

(二) あなた(方)は、ここで、信じ告白されている

「天地を造った、全能の父」を信じますか。

「そのひとり子、わたしたちの主イエス・キリスト」を信じますか。

「聖霊」を信じますか。

信仰告白者は「はい」と答える。

(三) あなた(方)は、このような父・子・聖霊なる三位一体の神の御名によってすでに洗礼され、恵みによる永遠の契約を受け継ぐ者であることを認めますか。

信仰告白者は「はい」と答える。

4. 牧師は会衆を起立させ、「使徒信条」を一同で信じ告白する。

5. 誓約

あなた(方)は誓約しますか。

(一) あなた(方)は主の日の礼拝を重んじ、教会員にふさわしく生活することを誓約しますか。
信仰告白者は「はい」と答える。

(二) あなた(方)は、何よりも、聖餐にあずかるためすでに洗礼され、今公けに信仰を告白するのですから、今後、聖餐を重んじ、喜び、誠実に守ることを約束しますか。
信仰告白者は「はい」と答える。

(三) あなた(方)は、「唯一の聖なる公同の使徒的教会」の一団である「日本キリスト教会」に属する者です。その日本キリスト教会信仰の告白を誠実に受け入れ、憲法規則に従うことを約束しますか。
信仰告白者は「はい」と答える。

6. 祈り (按手の形式を取る式文が多い)

父・子・御霊なる御神よ。

あなたは、いま前に立つこの(これらの)兄弟(姉妹)を深いみ心によって、信仰の家庭に生まれさせ、両親(父または母)と同じ恵みの契約のうちに選び、キリストの血による罪の赦し、復活による新しい命に生きる洗礼にあずからせ、主の教会のうちに養い育てていただきました。

あなたのみことばと聖霊の働きにより、いまこの(これらの)兄弟(姉妹)はみずからの信仰を公に告白し、教会のひとえだ(肢)として、聖餐にあずかる者とされたことを感謝します。どうか、聖霊の助けと導きにより、すべての試練と誘惑に勝ち、今後、信仰のよきたたかいをたたかい、主の忠実なしもべとして、主と教会に仕え、この世にあって主の使命に生きる者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン

7. 宣言

これまで小児(未陪餐)会員であった[氏 名]は、今、信仰を公に言い表し、教会生活におけるすべての責任をもつ陪餐会員となりました。主に心から感謝し、これからこの(これらの)兄弟(姉妹)と共に主に仕えていきましょう。

< 「信仰告白」に関する手引き >

1. 「信仰告白
(式)」は聖礼典ではない。ルーテル教会でも「堅信礼 (confirmation)」という呼び方をやめて来ている。
2. 従来『日本キリスト教会式文』のように、「洗礼」と並置する順序は、「(小児) 洗礼」という聖礼典を「信仰告白」がなされて初めて補完される半分の洗礼典という印象を与えるので、峻別した。
3. 「信仰告白
(式)」とは基本的には、すでに授かった洗礼において出来事となっている「神の恵みによる永遠の契約」を再想起し、全人格的また主体的責任と決断をもって、自ら信仰を公に表明することである。
4. そのような
ところから、「小児洗礼」を受けているものは、その授かった聖礼典においてすでにキリストの体である教会のひと肢であるところから、小児陪餐の問題が提起されている。世界の諸教会の趨勢は、カトリック教会をはじめ、改革教会の多くも、いわゆる「堅信礼」「信仰告白 (式)」に先立って、信仰者である両親の指導と監督の下、小児洗礼を受けている子どもたちに「聖餐の意味と心得」を教えた上で聖餐に与らせている。もちろん、この趨勢は「小児洗礼が聖礼典である」との議論の本質から出ているが、もう一方で、現代という時代状況もある。欧米のキリスト教国において、これまで、「堅信礼」「信仰告白式」は、社会的に「成人 (大人) とみなされること」と関係していた。しかし、今日高学歴社会となり、経済的自立を含めて、「成人 (大人) とみなされる」年齢は高くなっている。教会は全人格的また主体的責任と決断を求める「献金」「自己奉献」をどのようにとらえるべきか、考えるべき時代に来ているのではないか。さらに、欧米の教会も日本の教会もそうであるが、小児洗礼を受けたにもかかわらず、未陪餐会員のままで教会から離れてしまうものが、非常に多いことである。「小児洗礼が聖礼典である」ことの議論の本質から、『礼拝指針 (アメリカ合衆国長老教会)』の中では以下のように記されている。「洗礼を受けた子どもで食卓へ招かれる意義とそれに対する応答の意味について養われ、導かれた者は、それに与ることの理解は、成熟の度合によって異なることを認めた上で、主の晩餐を受けるように招かれている。(W-4. 2002 「洗礼を受けた子どもたち」)
5. 「信仰告白
(式)」とは、3に記した内容であるところから、最近、「信仰告白 (式)」において用いられるだけでなく、長い間教会を離れて信仰を失っていた者が再起する場合にも応用されている。また、他派からの「入会式」に関しても適用されている。